

大阪から移住。定置網による地域おこしを目指す。

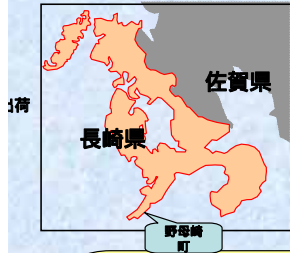
野母崎三和漁業協同組合 大戸起久男さん 43歳 漁業歴6年

大戸さんは、小型定置網漁業と素潜り漁の2本立てで操業されています。

大戸さんは大阪で医療関係の仕事に従事されていましたが、36歳のときに家族で野母崎町に移住されました。漁業を始めたのは、紹介された漁業者からの厳しい意見に逆にやる気がでたからです。移住後は藻場の回復活動など地域活動に積極的に参加され、26年度には知事から漁業士に認定されました。一本釣りと素潜り漁だけでは経営が厳しい地域おこしには雇用を確保できる漁業の育成が不可欠と考え、定置網をはじめました。現在は漁業研修者を受け入れ、技術の指導も行っています。将来的には現在の定置網を増やし、周年操業による雇用の拡大で地域とともに発展していくことが夢とのことでした。



大戸起久男さん



経歴

36歳 野母崎町に移住、漁業研修をスタート

県の紹介で野母崎町を訪れたのがきっかけで、21年10月に移住。国及び県の支援事業を活用して一本釣漁業及び採介漁業の研修を開始。

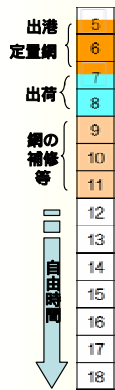
38歳 研修を終了、漁業開始

県の事業活用により漁船を取得し、一本釣、採介漁業を開始するとともに、小型定置網漁業に従事。

41歳 小型定置網を開始。

一本釣、採介のみでは経営が厳しく、小型定置網の経営を開始。知事から青年漁業士の認定を受ける。

大戸さんのいちにち



小型定置網漁業の操業 (5:30~7:30)

朝5時30分頃に従事者3人と漁港出港！網に入った魚を取り上げ、漁協の活魚車が来る7時30分間に合うように港に戻ります。

直売所などへの出荷 (~9:00)

漁獲された魚は漁協が受け取るほか、近くの直売所(道の駅)に出荷します。

網の補修(9:00~12:00又は13:00~15:00)

直売所から戻った後、定置網の補修を行います。

網の入替え作業 10日~2週間ごと(海上8:00~11:00)

定置網は海中に入れたままにしておくことで汚れて魚が入らなくなります。また毎日の操業で傷んで破れたりしますので、定期的に変換し、汚れ落としとともに、破損した箇所の補修をします。



素潜り漁の操業 (9:00~13:00)

素潜り漁は4月中旬から7月末までで、この時期は小型定置網漁業と併せて操業します。



(小型定置網のみ)

(小型定置網と採介)

年間操業スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小型定置網	→	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
採介				←	←	←	←	←	←	←	←	←

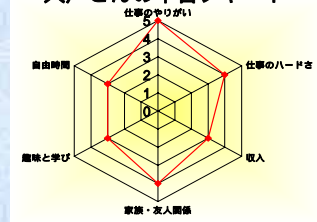
地域活動など

- 野母崎三和漁協青壮年部、高浜地区青年団、高浜地区消防団所属
- 前PTA副会長(野母崎小学校)
- 青壮年部の一員として取組んだウニ駆除など藻場の保全活動について、平成24年度全国青年・女性漁業者交流大会で発表。藻場の回復活動は現在も継続中。
- 知事から認定された漁業士の活動として、水産教室で小学生を指導。

(その他)

- 放射線技師と医療情報技師の資格を持ち、地元地区に資格を持った者がいないため、現在も週1~2日程度従事。

大戸さんの本音チャート



「現時点ではまだまだ収入は厳しく、仕事もハードだけれど、大阪にいる時より友人も増えやがいが感じています。」

漁業を目指す方へのアドバイス等

- 安易に釣りで生活できるなどと考えないこと。
- 地域活動へ積極的に参加するなど、地域に溶け込み、地域とともに発展する努力をすること。
- 漁船の取得や開始後の運転資金(資材、燃油費等)が必要なため、そのための蓄えがあること。